
黒の時代

とさけん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒の時代

【Zコード】

N70760

【作者名】

とねけん

【あらすじ】

夜の繁華街、

若者、極道、チンピラ、薬の密売人、サラリーマン、この危険な香りがする街に、一人の中学生が居た。そいつは学校にも行かず、夜になれば、外へ行き、遊んでいよいよ奴だ。

その中学生が、この街にのめり込んでいく。

(前書き)

一番最初に書いた物なので、つまらないかもです。

いつも通りの朝が来た。

すでに起きた時には、両親は仕事に行き、家には居なかつた。眠い目をこすりながら、下に降り、まず最初にタバコに火をつける。学校にも行かず、家でタバコを吸う中学生。社会から見たら、不良でダメ人間だろう。そいつの名前は、シユウ。

少ししてタバコをもみ消し、椅子に座りこんだ。ここからが、シユウの一番嫌いな時間だ。嫌いな理由は、みんな今の時間は、仕事をしたりして、忙しい時間に、何もせず、ぼーっとしているのが、嫌いだそうだ。本当は優しい子なのかもしない。特別下に居てもする事はないので、自分の部屋に戻り、一眠りした。

夕方、地域で流れる鐘の音で目を覚ました。もう母親は帰つてきた。シユウは引きこもりではなかつた。自分の部屋の窓から、母親の車があるのを確認して下に降りた。意外と母親とはよく話すらしい。この時間からがシユウは大好きらしい。母親が作ってくれた食事を食べた。朝から何も食べていなかつた。シユウは食に興味がない。興味がないというよりは、食べたら申し訳ないという気持ちになるそうだ。理由は、何もしていい癖に食べるには、嫌だという事らしい。なんだか、変わっている子供なのかもしない。しばらくして父親が帰つてきえ屋に戻りた。シユウは父親が苦手だった。シユウの父親は、無口で怖いそうだ。

しばらくして、自分の部屋に戻りタバコを吸う。シユウはタバコが好きらしい。シユウには未成年だから吸つてはいけないという決まりはもう頭にない。でもシユウには、吸つているとカッコいいと思っている部分もあるらしい。タバコを消し、テレビをつけた。すでに七時を回つていた。ちょうどこの時間はテレビが面白いのがたくさんやつ正在中ので、この時間に、テレビを見るそうだ。シユウは

テレビが好きらしい。しばらく見ていると、インター ホンが鳴った。母親が出ると、担任の先生だった。シユウは下に見に行かなくても声で分かる。母親と担任が話している。内容が分からぬが、かすかに会話しているなと言う事はわかる。先生が帰ったのを確認してお風呂場に向かつた。お風呂場でラジオを聞いた。お風呂からあがり、自分の部屋に戻つた。そしてタバコを吸う。思いつきり吸いこんで、煙を吐いた。肺に入つていく感じが分かる。

もう外は真っ暗。シユウはだんだんと氣分が良くなつていく。若者の言葉で言うと。テンションが上がると言うであろう。シユウの父親は、早く寝る人だ。そそくさと自分の寝室に入つて行つた。仕事で疲れているのだろう。母親も父親に次いで、自分の部屋に入つて行つた。すぐ下に降りようと思ったが、すぐに降りると、母親や父親に避けられているという誤解を招くので、10分くらいしてから降りて行つた。シユウはスウェットから、外出用の服に着替える。シユウは結構オシャレだ。ジーパンを履き、Tシャツを着て、皮ジャンを着た。ブーツを履き外に出た。家から見える街並みは、街灯も点いて、夜の雰囲気が出ていた。歩いて繁華街に向かつた。だんだん近づいてくる。ゾクゾクしていた。

繁華街に着いた。すでに人で賑わっていた。だんだんと奥に歩いていく。目的はないけど、ぶらぶらと歩くのが好きらしい。すると一人の女に声をかけられた。中学生が一人で繁華街を歩いていたら、声をかけられるのも、無理はない。その女の見た目は20代前半で金髪でピアスも開いていて、口からはタバコの匂いがした。

「何してるの？」と訊かれた。

「歩いているだけ。」と言つた。その女に遊ぼうよと言われた。断り切れずその女の家に向かつた。部屋は汚く、灰皿には山盛りのタバコの吸いがらがあつた。その女に、

「年齢は？」など自分の事を知りたがっている様だ。シユウは真面目に答えた。一通り答えたたら今度は、シユウから、

「何歳ですか？」と敬語を使い聞いてみた。その女は二十歳だそう

だ。シユウは、

「そうですか」と一言だけ言った。それから話す事もなくなり、その女は部屋の奥から一つの箱を持ってきた。シユウは、

「その箱は何?」と聞いたら、その女が箱を開けた。するとその中には、ジップロックの中に白い粉が入っていた。シユウは、逃げたそうと思ったが、捕まつた。その女が、

「なんで逃げるの」と聞いてきた。

「だつてそれ・・・。」と言つた。薬でしょとは言いづらかつた。その女はその薬をシユウに使わせた。そしてその女と、SEXをした。その女も薬を使つていた。シユウもその女も酷く興奮していた。朝が來た。シユウはベッドに寝ていた。その女は、すでに居なかつた。ベッドから起き上がり、テーブルの上に、置き手紙があつた。「昨日はごめんね」と一言だけ書いてあり、その隣に10万円が置いてあつた。中学生のシユウは、こんな大金を見た事なかつたので、どうしようかと思いながら10万円をポケットに詰め込んで自宅に向かつた。帰宅の途中10万円を、地面に投げつけ家に帰つていった。

(後書き)

読んでくれれば、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7076o/>

黒の時代

2010年11月4日14時57分発行